

## 2026 年世界難民移住移動者の日にあたって

今年の世界難民移住移動者の日のテーマは「これらの小さな者を一人でも」です。教皇レオ十四世は、マタイ福音書の「わたしの名のためにこのような一人の子どもを受け入れる人は、わたしを受け入れるのである」（マタイ 18・5）というイエスの言葉から、このテーマを選ばれました。このタイトルには、移住のただ中にある子どもたち一人ひとりを大切にし、その尊厳を守ろうとする教会の思いが込められています。

教皇は「福音は〈一人でも〉ということばで、わたしたちに計算をしないように求めます。これは統計や数の問題ではありません。わたしたちは子どもたちにおいて主を受け入れ、主と出会うことができるのです」といわれ、子どもたちの尊厳を守ることは、主イエスと出会うことだと述べられます。

イエスの時代、子どもたちの人間としての尊厳、基本的人権は認められていませんでしたが、現代世界においても、子どもたちの権利や尊厳を脅かす状況は何ら改善されているとは言えず、緊急かつ効果的対応が求められているのです。

終わりの見えない各地の戦争、また気候変動に伴う大規模な災害が頻発する世界の中で、最初に犠牲になるのは子どもたちです。教皇の呼びかけに応えて、わたしたちも最も弱い立場にある人々を援助し、そのいのちを擁護する社会となりますよう、ともに歩んでまいりましょう。

日本カトリックいのち・平和・人権委員会  
委員長 森山信三